

“MOTTAINAI” goes around the world?

英語班：西田亜季乃 金里遥

1. はじめに

私たちは、日本人の習慣のひとつと言える“もったいない”について興味を持ち外国と比較して調査することにした。

「外国ではこの“もったいない”という日本の習慣がまだ完全に広まっていない。」という仮説を立て、日常に比べ意識の届きやすい非日常的な場面での食べ物に関する“もったいない”に焦点をあて、調査をはじめた。

2. 調査内容

- (1) 日本人28人、アジア人28人、欧米人28人にアンケートを取った。
 - ① 年齢、国籍、日本での滞在時間
 - ② 日々の生活の中で食べ物を無駄にすることに罪悪感を感じたことがあるか。
 - ③ 食べ物をパイ投げなどのおもちゃとして扱うことをどう思うか。
 - ④ 節分やトマト祭りなどの食べ物を使う祭事などについてどう思うか。
- (2) アンケート項目ごとにグラフを作成し、地域によって比較する。また、アンケート項目②と③での地域ごとの比較も行う。
- (3) 仮説が正しいかどうかを検証し、理由を考察する。



↑パイ投げ



↑節分



↑トマト祭り

3. 結果

日々の生活ではすべての日本人がもったいないと思っていた。それに対し、アジア人はほとんどの人がもったいないと思っていなかった。バラエティなどの非日常的な場面ではどの地域の人もほとんどの人がもったいないと思っていた。日常の場面と非日常の場面を比較しても関連性はあまり見つけられなかった。祭事などでもほとんどの人がもったいないと思っていた。すべてのアンケート項目において日本人のもったいないに対する意識はほかの地域に比べ高かった。

4. 考察

ヨーロッパ人とアメリカ人がアジア人に比べ日々の生活の中でもったいないと感じる人数が多いのは 1880 年代から第一次世界大戦前の 1912 年にかけて行われたアフリカの植民地化によりヨーロッパ諸国やまたその植民地でもあったアメリカ諸国がアフリカとの関係を持ち、アジア諸国よりもワンガリ・マータイさんの母国であるアフリカの文化をより深く取り入れられたのではないかと考えられた。

また、日本人が他のアジア、ヨーロッパ、アメリカ諸国に比べ伝統文化をもったいないと思っていない傾向にあったのは、日本人は小さい頃から親にもったいないという概念を教えられてきたが、節分などの伝統文化においては食べ物を食べる以外で使っても怒られない、また親から参加するように促されるなどという経験があり、それにより伝統文化はもったいなくないという固定観念があるのではないかと考えられた。

5. 課題

今回アンケートを取ることができなかったアフリカ諸国の人々にもアンケートをとりたい。

また、より文化的な背景、宗教などを考慮した上で調査しなければならないのではないかと。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

Wikipedia - ワンガリ・マータイ